

山鹿産の繭で特注着物

依頼主が農家見学



養蚕農家、花井雅美さん(左)から蚕の育て方を聞く
オーダーメイドの着物姿の女性。山鹿市

山鹿市の養蚕農家、花井雅美さん(48)の繭を原料に手作業で仕立てた着物の第2弾が完成した。オーダーメイドを依頼した東京在住の女性が15日、身にまとって花井さん宅を訪れ、繭の生産現場を見学した。

花井さんは、県内で2戸となった養蚕農家の一つ。熊本市出身の染織家、吉田美保子さん(55)と神奈川県から数人と分業し、希少な純国産の着物を2年がかりで完成させた。青みがかった黄色の生地に淡い緑色の格子柄の帯を合わせ、阿蘇のススキ野原を表

現。繭や糸の品質にこだわった逸品で、一昨年完成の第1弾と同じく「乗用車に近い価格」という。

依頼主の50代女性は「希望通りの仕上がり。丁寧な繭の育て方も分かったし、制作者の方々との出会いに感謝したい」とほほ笑み、蚕や桑畑に見入っていた。

この日は、熊本の近代養蚕・製糸業の開祖とされる山鹿市出身の長野藩平の生誕200周年記念シンポジウムが市内であり、この着物の制作過程が動画で紹介された。

(猿渡将樹)